高知 精神保健

発行所　高知市丸の内1丁目2－20
高知県子ども・福祉政策部障害保健支援課内
高知県精神保健福祉協会
電 話：088(823)1111・088(823)9669(直)
FAX：088(823)9260
E-mail：kochi-mhwa@mopera.net
発行人　數井　裕光　　編集人　諸隈　陽子

第286号

令和６年度 初めのご挨拶

高知県精神保健福祉協会
会長　數井 裕光（かずい ひろあき）
（高知大学医学部
神経精神科学教室教授）

新型コロナウイルス感染症が２類相当から５類にかわり約１年がたちました。医療機関ではまだマスクを着用していますが、日常生活においてはマスクを外すようになりました。会議等も現地開催が多くなってきました。やはり直接会って話すことで、議論が活発になり、新しいアイデアも生まれます。今年度も本協会の皆様との交流をとても楽しみにしています。

さて、令和６年度の高知県精神保健福祉協会の活動計画について簡単にご報告させていただきます。まず、本紙「高知 精神保健」ですが、例年通り年３回（7・9・3月）の発行を予定しております。精神保健福祉卓球大会は、10月31日㈭に高知県立県民体育館で開催する予定です。昨年度は個人戦のみでしたが、今年度は団体戦を復活させたいと思っております。文化交流会は、しばらく現地での開催を見送っていました。しかし今年度は令和７年２月26日㈬に高知県立県民文化ホールで開催します。皆様のご参加を期待しております。第63回となる高知県精神保健福祉大会は、石川記念病院の福本光孝先生を大会実行委員長として、10月16日㈬の13時から高知県立県民文化ホールで開催する予定です。大会のテーマは、「『いつかの涙を光にかえて』～統合失調症の兄との絆:トイピアノによる再生～」で、トイピアニストの畑奉枝氏に講演と演奏をしていただきます。昨年度の「アンパンマン」に続いて、多くの県民に当協会を知っていただく、よい機会になると思います。会員の皆様のご参加をお願いするとともに、周辺の方にもご案内していただけたら幸いです。

今年度は、高知県で２つの学会が開催されます。一つは７月13日㈯に高知医療センターくろしおホールで開催される第26回有床総合病院精神科フォーラムです。高知医療センターこころのサポートセンター長の澤田健先生が実行委員長をされ、北代晶帆先生が事務局長を務めます。大会のテーマは「総合病院精神科を通じた地域連携の展開」で、「有床総合病院精神科における難治例の検討」、「児童思春期病棟の地域連携」、「地域連携を見据えた総合病院精神科の展望」の３つの魅力的なシンポジウムが予定されています。もう一つは12月７、８日（土・日）に高知県立県民文化ホールで開催される第41回日本森田療法学会で、高知大学医学部寄附講座児童青年期精神医学の高橋秀俊特任教授が大会長を、高知大学保健管理センターの上村直人准教授が副大会長を、高知大学精神科の森田啓史特任助教が事務局長を、大学院生の大原伸騎先生が副事務局長を務めます。大会のテーマは、「原点から紡ぐ多様な支援. 精神療法のレジェンドを継承しライフステージを通して持続可能な多職種地域連携を共創する」です。今年は森田正馬先生生誕150周年にあたり、この記念大会を高知県で開催できることは、当協会としても嬉しく思います。大会では、森田正馬先生ゆかりの地を巡るエクスカーションも準備します。両学会に対する皆様のご参加、ご支援もよろしくお願いいたします。

目　次

令和６年度　初めのご挨拶……………………………… 1
こうち絆ファームの農福連携について……………………… 2
農福連携活動やってみた！……………………………… 3
病棟新築を振り返って………………………………… 4
令和６年度 デイケア交流会を開催して ………………… 5
事務局担当者……………………………………… 6
高知県精神保健福祉協会　令和６年度事業計画………… 6

こうち絆ファームの農福連携について

安芸市で農福連携事業に取り組んでいる『こうち絆ファームTEAMあき』さん（第283号にて紹介記事掲載）が、また新たな取り組みを始めているとの噂を聞き、代表の北村浩彦氏に『絆ファームの去年から大きく変わった所と今後の展開』をテーマにお話を伺ってきました。

農福連携という言葉が浸透してきたのか、北村氏の元には以前と比べて相談や問い合わせの件数が増えているそうです。その中でもやはり、『就労に繋げたい方がおる』といった内容の相談は多いそうで、絆ファームの制度を利用し就業している人の数は去年に比べて増加しているそうです。

また去年と比べ、人とのネットワークが拡大し、繋がりも強くなったとお話をされていました。北村氏の元には、安芸市周辺だけでなく、高知県全域、さらには県外からの相談や問い合わせも入ってくるそうです。北村氏は相談を受けた際、『その地域が困っている。農福連携に関係ないから何もしない。ではなく、どんな相談がきても自分の出来る範囲の事はやろう。』という考えで解決に向けて取り組んでこられました。

その結果、農業だけでなく、市役所・病院関連・不動産・法律事務所等、あらゆるジャンルの機関との連携ができるようになり、以前より就労支援に向けての取り組みがしやすくなり、生活方面でも相談できる体制が整った事が強化されたそうです。

また安芸市以外での就労支援問題の相談を受けた際には、その地域を担当している農福連携コーディネーターさんや、農福就労定着サポーターさんとの連携を図り、各地域で人手不足で悩んでいる農家さんと、生きづらさを感じている人の雇用サポートに繋げています。

また、絆ファームさんは、地域のイベントへの参加も積極的におこなっており、商店街でのナス詰め放題イベントや、ナスの収穫が終了する６月末～７月初旬に『ナス狩り』というイベントも行っています。事業者や近隣の小学生、家族連れで参加される方が多く、毎回盛況だそうです。

今後は地産地消と地域の障がい者就業支援の両立にも力を入れていくとの事で、企業と協働し、地産地消型ノウフク連携非常食「緊急救命72ｈおかゆ」の生産・販売の取り組みも始まっています。

取材の中で、北村氏は「困りごとの解消、解決にツールが多い方が良い。何を使っても助けられれば良いじゃないですか。なおかつ、ネットワークがあれば、めちゃくちゃスピード感がある。そこで地域づくりが進んでいき、共生できる社会ができる。」と仰っていましたが、その言葉通り、農業から始まった絆ファームさんの地域共生社会への取り組みは現在、「農・林・水・商・法・仏・福・音福連携」まで拡大しています。

生きづらさを抱えた人にとって、この社会というのは私たち健常者が思っている以上に生きづらい社会だと思います。自分の事を理解もしてもらえない、コミュニケーションを上手に取る事が苦手、自分という存在を上手く発信・表現できない。そういった方にとって、様々なツールを利用しながら、他者と関わりを持ち、自分の存在を認めてくれ、自己肯定を高めてくれる『こうち絆ファーム』という場所は、希望の居場所になっていると思います。

そして、こういった支援の場は、もはや安芸市だけでなく、高知県にとって、なくてはならない存在になってきているのではないかと感じました。（文責：久保浦）

絆ファームTEAMあき

一般社団法人　こうち絆ファーム（TEAMあき）
URL：https://kochi-kizuna-farm.com/
☎ 0887-37-9071/FAX 0887-37-9072
〒784-0004 高知県安芸市本町３丁目10－35

農福連携活動やってみた！

医療法人 仁新会　石川記念病院 デイサービスセンターあがわ　管理者　藤井　未央

皆様！今回は私達が農福連携活動を取り入れた事について発表させていただく事になりました。

実は、いの町内で認知症対応型通所介護施設は、ここ石川記念病院 デイサービスセンターあがわだけ という事で、私達は専門職として認知症の方が住み慣れたご自宅で、長く そして豊かに暮らしていく為のお手伝いをさせていただいております。認知症はご存じのように誰もがなり得る身近なものです。だからこそ今から一緒に予防対策していきましょう！ヾ（≧▽≦）ノって今日は予防についての発表ではないので詳しくはまたの機会という事で、とにかく楽しむ事！たくさん笑って活き活きと生活しましょう＼(^o^) ／

さて本題に入りますが、農福連携については、勉強会の時にいの町包括支援センターの職員さんより情報いただき、すぐにこれは活きた活動！社会参加だ！やってみたいと職員に相談しました。職員もすぐに賛同してくれ、とにかく一度チャレンジしてみて利用者さんの意見を聞こう、と一箱注文し「皆さん！実は今農家の皆さんが人材不足で大変困っています…誰か作業を手伝ってくれる方がいないかと…いの町の方から相談を受けまして…どうでしょうか？今朝採れたてのおナスを私、預かって来たんですが…スーパーに出荷する為に、おナスの袋詰めをかまんよ！私お手伝いしてもイイよという方(￣∇￣)/いらっしゃいませんか？やっちゃうよって方？」と説明したところ…すぐに手を上げてくれ、立ち上がり「やりましょうか？」「何すればえいの？」と自分から行動してくれました。作業後も「これくらいなら、皆でやればできるよ（笑）」と一人では不安だけど皆と一緒なら、という声も聞かれ、困っている人がいるのであればできる事はやりましょう！と人として助け合い精神ですよね。そうです、認知症の方は認知機能が低下しても、人の痛みが分かる思いやりなどの情動機能は比較的保たれています。私達デイあがわが日々取り組んでいる事は、この保たれている情動機能に良い刺激を繰り返す事により、機能低下を予防し社会生活をできるだけ長く、明るく、そして豊かに送っていただく方法です。皆から感謝され、自分の良さに触れる事で自信を取り戻し活き活きとした表情や言動が多くなります。認知症の方も私達も同じです、周囲から認められたい、自分を価値ある存在として認めたいという願望があります。「自分の話を聞いて欲しい」「自分の努力を褒めて欲しい」といった 承認欲求は誰もが抱く感情で、満たされると向上心に繋がるなどポジティブな作用があります。作業をする中で、袋詰めしてテープで閉じる作業も利用者さん自ら行動し「どうやるで」と積極的に役割を見つける姿もありました。ナスや袋を他の人に渡してあげたり、このナスならどう料理する、こうしたら美味しいね等の話題や、昔こうやって家の手伝いもした懐かしい話題も出て、茄子が終われば今度はピーマンなど夏野菜に挑戦する♪ワクワク感や季節も感じます♪(*´▽`*)

認知症の方には早期に良い環境を整える事で進行を遅らせる事ができます。しかし、いくら社会参加が有効だ、といっても提供の仕方を間違えてしまうと、嫌な感情だけが強く残ってしまいます。だからこそ利用者さんにとっての良い環境作りや楽しんで作業できる調整等、色んな工夫や対応が重要となります。

これからも、デイあがわで過ごす意味のある時間を、専門職としてチーム皆で提供できるように精進していきます。活動の写真などブログにも載せていますので、ぜひご覧いただき 皆様のご意見やご感想をお待ちしております。

デイサービスセンターあがわ

医療法人 仁新会　石川記念病院
デイサービスセンター
あがわ
URL：https://ishikawahp.com/guide/dayservisagawa/
〒781-2128 高知県吾川郡いの町波川77番地
TEL：088－892－0641・FAX：088－893－2633

病棟新築を振り返って

医療法人慈光会　岡豊病院
事務長　西森　央

昨年11月に、病棟（南館）を新築しました。

それまでの既存病棟は、昭和47年に建築した西館、昭和56年の本館、そして平成６年に建築した北館の３棟がありました。耐震診断で改修が必要となった西館と本館に加え、北館はエレベーターが油圧式であったため総入れ替えを業者から提案されていて、８年ほど前から全体的な改修の検討に入っていました。

大筋の計画では、

①南館を新築し、本館の患者様は本移動で、北館の患者様は仮移動で、それぞれ南館に移動し、
②本館と北館の改修完了後に、南館に仮移動していた患者様を北館に戻し、
③西館の患者様を南館と本館に移動し、
④西館を解体し、跡地を駐車場として整備する、

といった段取りでした。

南館の建築場所としては、本館の南側に市道を挟んであった駐車場が候補地でしたが、両館を結ぶ上空通路が必要で、その設置が課題でした。当時は、委託していた設計事務所は、上空通路は行政の許可がなかなか下りないという認識でした。

そこで、許可の根拠を調べてみると、建設省事務次官らが知事ら宛に出した通達にたどり着きました。なんと昭和32年に発出された「道路の上空に於ける通路の許可基準」というものが改正を繰り返しながら効力を持っていました。その形式的な基準をクリアすることは問題なくできそうでしたが、結局は、道路管理者（南国市役所）、特定行政庁（高知県庁）、警察署長（南国警察署）及び消防長（南国市消防本部）の４者が連絡協議会を設け審議するということでした。

そのため、これらの組織にそれぞれ説明に伺い、最終的には一堂に会していただいて審議・許可を得ることができました。

次には、都市計画法第43条に基づく「開発許可を受けた土地以外の土地における建築等の制限」（市街化調整区域における建築許可）なるものの手続きについて、南国市役所を窓口として行いましたが、許可までに９ヵ月を要しました。

建築工事に着手する前のこれらの行政手続きだけでも相当の時間と労力を要したことでした。

建築工事に着手してからも、前述のとおり、複数回にわたって病棟移動を行わなければならなかったため、そのつど保健所に一部変更許可申請書を提出、また厚生支局には病棟の病床数変更に伴う施設基準の届出が必要でした。

以上のように付随する行政手続きを経ながら、肝心の建築工事についても、毎週１回以上の詳細な打ち合わせなど結構大変でしたが、何とか仕上げることができました。

さて、新築した南館の特筆すべき点は…本体工事以前の行政手続きのお話で紙面をすっかり使い切ってしまいました（汗）。新築した南館につきましては、お近くにお越しの際などにお立ち寄りいただければご案内させていただきたいと存じます。失礼いたしました。

岡豊病院　新病棟（南館）　外観

医療法人慈光会 岡豊病院
URL：https://www.okou-hp.or.jp/
☎ 088-866-2345/FAX 088-866-2348
〒784-0043 高知県南国市岡豊町小蓮689-１

令和６年度 デイケア交流会を開催して

藤戸病院デイケアセンターMAC　作業療法士　今城　可嗣

今年度のデイケア連絡会会長を務めております、藤戸病院の今城と申します。このたび、縁あって記事を掲載させていただく機会を得ましたので、デイケア連絡会の活動や今年度開催したデイケア交流会の様子についてお伝えしたいと思います。

デイケア連絡会とは

精神障害者のリハビリテーションの向上のために、会員の知識・技術の向上及び精神障害者デイケア施設間の交流・情報交換を図ることを目的とし、高知県下の精神科デイケアを有する施設が定期的に集まり活動をしています（会則より一部抜粋）。

現在は14施設が入会しており、２ヵ月に１回会議を開催し、イベントの企画・運営や情報交換会を行っています。

デイケア連絡会の活動について

これまでデイケア連絡会が行ってきた活動についてご紹介します。

- **春のデイケア交流会**
  病院施設の一角をお借りし、フリーマーケットや飲食、各施設から出し物を披露するといった活動を行っています。
- **秋のデイケア交流会**
  ソフトバレーを通じたスポーツ交流を行っています。
- **DAY展**
  かるぽーとを会場に、各施設の利用者が作った作品を大々的に展示します。

大きくはこの３つの活動を年間行事として開催していました。

どうする？デイケア交流会

2023年に新型コロナウイルスが５類に移行し、これまで行ってきた活動に再開の兆しが見えてきました。デイケア連絡会でも、交流会の再開に向け議論を重ね、2024年５月に開催が決定しました。とはいえ、約５年ぶりの開催にあたり内容をどうするか悩みました。デイケア利用者の高齢化が進んでいることに加え、コロナ禍による集団活動への制約が、活動性の低下をもたらしていました。飲食を伴う活動は感染リスクを高め、ソフトバレーは転倒リスクを高めることが予測できました。できるだけ多くの利用者に参加してもらいたいと悩んだ結果、人気の卓球に加えて「ボッチャはどうか」と意見が出ました。ボッチャはボールを転がす・投げる動作が出来れば、特に激しい動きを伴わない為、高齢の方でも参加しやすい特徴を持っています。

ボッチャの様子

また、今回初めて文化的交流として、オセロ・将棋・麻雀の導入も計画し、スポーツだけにとらわれない新たな交流会の在り方を模索しました。そして2024年５月デイケア交流会の日を迎えました。

麻雀の様子

復活！デイケア交流会

令和６年５月16日㈭南国市スポーツセンターに10施設と障害者スポーツセンターの協力も得て、利用者・職員総勢100名を超える人が集まってくれました。久しぶりの開催のため、準備にもたどたどしさがありましたが、「やっとできる」新鮮な感覚を覚えました。今回は、勝敗にこだわらず交流を主な目的としましたが、やはり勝負事は人を熱くさせるもので、特にボッチャは予想以上の人気でした。ぞくぞくと試合オファーが本部に寄せられ、審判が足らなくなるというハプニングもありましたが、職員の臨機応変な対応のおかげで乗り越えることができました。卓球や新しく試みたオセロ、将棋、麻雀にも多くの人が集まり、時には職員を交えながら楽しく取り組みました。

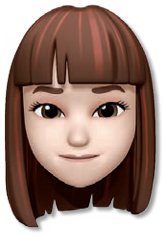
５年ぶりの交流会を無事に終え、課題もありましたが改めて顔を向い合せた交流の大切さを感じました。今回のイベントをきっかけに、これまで中断していた活動を再開し、今までと違った活動も模索しながら進んでいきたいと思います。今後もデイケア連絡会の活動を温かく見守っていただけると幸いです。

全体の様子

医療法人おくら会 藤戸病院
URL：https://okura-kai.com/fujito/
☎ 088-822-3440/FAX 088-824-8144
〒780-0901 高知県高知市上町１丁目４-24

事務局担当者

皆さま、初めまして。５月20日より事務局に採用となりました米花妙と申します。よくお聞きいただくのですが、姓は「べいか」と読みます。現在は高知市内におりますが、幡多地域でも20年ほど暮らしたことがあり、今でも懐かしさにかられ、時折訪れる大好きな地域です。



事務局担当
米花（べいか）　妙（たえ）

私はこれまでさまざまな仕事をしてまいりましたが、近年では相談業務が主でした。その中では、人とのつながりが大切だと実感する場面がいくつもあり、そのつながりが自分を助けてくれることも多く、自分にとってかけがえのないものです。

現職に就き、あっという間に１カ月が過ぎました。「年齢はただの数字」と強気なことも言えず、自身の記憶力等に不安を感じますが、無理をせず、いい意味で自分のペースを保ちながら、会員の皆さまの下支えが一日も早くできるよう、取り組んでいきたいと考えています。

皆さま、どうか、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

高知県精神保健福祉協会
URL：http://www.kochi-mhwa.sakura.ne.jp/
☎ 088-823-9669/FAX 088-823-9260
〒780-8570 高知県高知市丸ノ内１丁目２-20

高知県精神保健福祉協会 令和６年度事業計画

１．広報部

年３回、会報「高知精神福祉」の発行（各2,700部）
精神保健福祉大会をはじめ、協会関連事業等の取材
協会ホームページ構成の再検討、協会パンフレットの作成

２．大会事業部

第63回高知県精神保健福祉大会の企画・運営
開催日：令和６年10月16日㈬　13:00～15:50
場　所：高知県立県民文化ホール（グリーン）
テーマ：「いつかの涙を光にかえて」
～統合失調症の兄との絆：
トイピアノによる再生～
講演+演奏
【講師】　畑　奉枝（トイピアニスト、
sound office 音学舎代表）

３．総合福祉部

精神保健福祉卓球大会　令和６年10月31日㈭
高知県立県民体育館
文化交流会　令和７年２月26日㈬
高知県立県民文化ホール

４．調査研究部

令和６年度は休止

５．研修部

地域研修会
南国市で11月開催予定

６．基金管理運営部

精神障害者の自立と社会復帰の促進を図る事業に資金の貸付（無利子）を行う。
貸付金の返還期間は原則１年であるが、状況に応じて延長可能。
本年度の貸付件数（令和６年６月現在１件）